

5月17日（土）から関東圏の有隣堂最大規模で常設展開
有隣堂 キュービックプラザ新横浜店で「ZINE」コーナー開始
エッセイを中心に扱い、表現の場、交流の場作りを目指す

株式会社有隣堂(本社：神奈川県横浜市 代表取締役 社長執行役員：松信健太郎)は、2025年5月17日（土）より、有隣堂 キュービックプラザ新横浜店にて個人出版物の「ZINE（ジン）」を集約したコーナーを常設展開いたします。

有隣堂の店舗における「ZINE」常設展開は、2024年9月オープンのグラングリーン大阪店に次ぐ2店舗目であり、今回は当社最大規模となる展開です。棚（約88センチ幅）4本分を使用し、エッセイを中心に約200作品を扱い、熱量のある多彩で魅力的な作品との出会いを促進いたします。

「ZINE」は一冊一冊に個性があり、作り手のメッセージやこだわり、熱量をダイレクトに感じられるのが魅力であり、近年、作品の流通需要が高まっています。当社はこの需要に応え、新たな表現場所、交流場所を創出いたします。今後は、「ZINE」を扱う既存店の拡大と、作り手・読み手の境界のない交流イベントなどを開催し、活字文化を愛する人々のコミュニティ拠点を形成する書店を目指して取り組んでまいります。



■「ZINE（ジン）」とは

同人誌やリトルプレスとも呼ばれ、個人やグループが表現したい物事を自由に制作した自主出版物です。出版社や取次を介さないため一般流通されないことが多く、直接販売が基本。コンテンツやデザインに制限がなく、エッセイ、詩歌、写真、アートなど多様なジャンルで表現されています。

■「ZINE」を扱う背景と目的

近年、SNSや創作ツールの普及により、個人の表現形態が多様化し、2002年に開始された「文学フリマ」を代表に、「ZINE」や同人誌、リトルプレスの即売会が各地で活況を見せています。自分を気軽に表現できるメディアとして、創作意欲に目覚める人も増え、作品の流通需要が高まっています。

商業出版市場は、2022年に1.1兆円と半減し、書店数も年々減少しています。当社ではこうした状況を受け、書店の役割を再定義し、新たな価値創造へ挑戦を進めています。そこで、この需要に応え、熱量を持った書店員による幅広い作品の展開を通して書店が新たな表現の場所、人をつなぐ場所となることを目指し、2024年9月にオープンした「グラン

グリーン大阪店」で「ZINE」の実験的な常設展開を開始いたしました。現在では、約180作品を取り扱い、毎月の店舗全体の売上額の1割以上を占めるジャンルに成長し、確かな手応えを得ています。こうした流れを受け、お客様からの強い要望に応える形で、今回「キュービックプラザ新横浜店」にてさらなる規模での展開に踏み切る運びとなりました。

■キュービックプラザ新横浜店における「ZINE」の展開と特徴

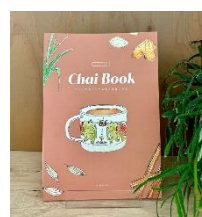
新幹線発着駅である新横浜駅直結の商業施設に2023年12月にオープンしたキュービックプラザ新横浜店は、居住者だけでなく、ビジネス、観光、ショッピングや飲食、スポーツ観戦やイベント参加など、多様な目的で訪れる人々のニーズに応える店舗です。

5月17日（土）から常設展開を開始する「ZINE」コーナーでは、エッセイを中心に約200作品を展開予定です。読み手と近い生活者の目線で綴られた作品には、日常の幸せや喜び、不安や悩みといった感情が表現されており、多くの共感や新たな価値観、気づきをもたらすものと考えています。今後は取扱い作品数を拡大し、交流イベントの開催など創作活動をサポートし、「読む」だけでなく「ZINE」の楽しみ方を提案してまいります。

< キュービックプラザ新横浜店 店長のおすすめ作品一例と紹介コメント >

『Chai Book』 町田めぐみ

牛乳と紅茶で作るインドのチャイに特化したレシピブック。レシピに添えられたかわいいイラストや、インドの現地で飲んだチャイやスパイスなどのコラムも楽しい一冊です。



『Chai Book』

『わたしのすきなふつうの本屋が閉店』 アトリエ風戸 平城さやか

元書店員の平城さんが働いていたお店が閉店した時に感じたことを綴った本。本屋が好きな方や書店員の方はもちろん、お気に入りのお店や場所がある方は共感することばがたくさんあるのではないかと思います。



『わたしのすきなふつうの本屋が閉店』

『絵で見る東京の近代建築の魅力』 コジマユイ

洋館やデパートなど東京の素晴らしい近代建築の魅力をイラストで紹介しています。外観だけでなく、建物の中の階段や天井などにクローズアップしたイラストと解説もあり、この本を持って建築さんぽをしなくなります。



『絵で見る東京の近代建築の魅力』

『ほんとうは、どうしたい？—他の誰でもない、この人間を生きること—』

佐々木ののか いいねはるか 発行：地下BOOKS

「表現」「恋愛」「仕事」などをテーマに手紙のやり取りをした往復書簡。お二人が自分がどうしたいかに気づいたり、お互いのことばが考えるヒントになっていくプロセスを読んでいると、自分の考えも整理されたり気持ちに変化が起こるような気がします。



『ほんとうは、どうしたい？—他の誰でもない、この人間を生きること—』

『青い靴をはいて歩く』 関根愛

これまでにエッセイを3冊刊行されている関根愛さんが、実話をもとに創作を書いた短篇集。家族を愛したいけれど一番近いがために憎んだり苦しむこともある。痛みを抱え続ける方にも読んで欲しいと思う作品です。



『青い靴をはいて歩く』

■今後の展望

今後は、既存店でのZINE展開の拡大を検討し、作り手・読み手の境界のない交流イベントや創作支援講座などを開催し、新たな表現者を育むプラットフォームとしての書店像を目指し、活字文化の育成・発展に寄与してまいります。

■店舗概要

名 称 : 有隣堂 キュービックプラザ新横浜店

開店日 : 2023年12月22日

住 所 : 〒222-0033

神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45

キュービックプラザ新横浜 8F

最寄り駅 : 新横浜駅 (JR 東海道新幹線、横浜線、
横浜市営地下鉄ブルーライン、相鉄・東急新横浜線)

取扱品目 : カフェ、書籍・文具・雑貨

営業時間 : 10:00~21:00 カフェ L.O. 20:30

売場面積 : 329.48 坪 (約 1,089.21 m²)

店舗ページ : <https://www.yurindo.co.jp/store/shinyokohama/>

・SNS : 「X」 [@yurindo_shinyk](https://twitter.com/yurindo_shinyk)

「Instagram」 [yurindo_shinyk](https://www.instagram.com/yurindo_shinyk)

「Facebook ページ」 <https://www.facebook.com/profile.php?id=61554144320875>



■会社概要 株式会社有隣堂

創業 115 年の神奈川、東京、千葉、兵庫、大阪に 44 店舗を展開する書店。複合型店舗では、飲食業態、アパレルショップなどの運営も行っています。また、楽器・音楽教室、図書館等の運営受託、OA 機器の販売、出版事業など展開。

公式ホームページ : <https://www.yurindo.co.jp/storeguide/>
